

平成30年度 第2回自己評価の分析

設問項目	肯定的回答 (%)			分析内容
	生徒	保護者	職員	
【設問1】 楽しい場	86	93	100	前回とほぼ同様の結果であるが、生徒の肯定的回答は-2ポイントとなり、学年別では2年が82%と最も低かった。背景には、中2特有の発達段階上の課題（思春期）や学習における「中2問題（プロブレム）」の影響等も考えられる。今後は生徒指導の機能をいかした授業の実践や教育相談の充実を図りながら、生徒理解をより一層深め、個に応じた適切な指導・支援を推進していく。
【設問2】 学校施設	92	96	97	前回同様、生徒・保護者・職員とも9割以上が肯定的な認識を持っている。まもなく新校舎移転後3年が経過するが、今後も定期的な点検等を通して、安全・安心な環境づくりに努めていく。また、老朽化した体育館と破損が目立つ生徒用机・椅子に関する要望が、生徒・保護者・職員ともに多くある。今後も市教育委員会と連携をとって対応していく。
【設問3】 情報発信	89	89	97	前回同様、肯定的回答は8割を超えている。学校だよりの「刮目」は、2学期末で24号を発行し、生徒の活躍や学校の様子等がよくわかるという評価をいただいている。また、前回保護者から要望があった配信メールの活用については、部活動等での配信が増え、有効に活用できている。今後は、学校ホームページのさらなる充実等、地域・保護者・生徒への積極的な情報発信を心がけていく。
【設問4】 地域交流	73	70	83	前回に比べ、生徒・保護者の肯定的回答は+2~3ポイントとなった。11月の2年職場体験学習、12月の1年職業講演会・東金市クリーン作戦への参加等が結果に反映している。1月には東金特別支援学校との交流会も実施した。また、職員の-5ポイントは、地域交流のさらなる必要性を感じての回答と思われる。今後も「社会に開かれた教育課程」の実現を目指して、地域交流に取り組んでいく必要がある。
【設問5】 いじめ防止	73	77	100	前回に比べ、生徒の肯定的回答は-7ポイントとなり、学年別では1年が80%、2年が66%、3年が71%という結果であった。近年、インターネットを介した案件が増加傾向にあり、特に情報モラル教育については携帯・スマホを所持し始める1年を重視してきたが、今後はどの学年においても定期的に実施する必要がある。また、いじめ防止に向けて、全教育活動を通じて人権意識の向上や規範意識の醸成を図りながら自尊感情を高め、生命を大切にすることを育むために、今後も職員研修の充実や指導体制の強化を図っていく。
【設問6】 わかる授業	87	83	86	前回に比べ、生徒の肯定的回答は-2ポイントとなり、学年別では3年が80%と最も低く、進路選択（受験）目前の状況も影響していると思われる。また、職員も-8ポイントと減少しており、職員自身も授業改善の必要性を強く感じている。1月末には、若手職員を対象に東上総教育事務所要請訪問を実施して各教科の検証授業を行うが、今後も「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指して、職員研修や授業実践を積極的に推進していく。
【設問7】 誠実な 相談活動	84	86	94	前回同様、肯定的回答は8割を超えているが、生徒は-2ポイント、職員は-3ポイントとなっている。一部生徒・保護者からは職員への強い改善要望があり、今後も毎日の生徒や保護者との関わりを大切にして、信頼関係を築いていくために努力していく。また、職員が心にゆとりを持って生徒・保護者にじっくりと向き合う時間を確保するためにも、職員の多忙化解消は必須と考える。職員の多忙化解消に向けて、今後より一層の業務改善を推進していく。

設問項目	肯定的回答 (%)			分析内容
	生徒	保護者	職員	
【設問8】 生徒理解 公平な評価	77	77	92	前回同様、生徒・保護者とも肯定的回答は8割を下回っている。今後はより一層生徒・保護者との対話を丁寧に行い、生徒理解・信頼関係づくりに努めていく。また、職員は-5ポイントとなっており、特に若手職員が生徒指導・生徒理解に関して悩みや不安を抱える場面がある。今後は、職員全員による全体研修とともに、若手職員のニーズに応じた年齢層別研修を実施する等の工夫・改善を図っていく。
【設問9】 教育環境	89	92	89	前回同様、生徒・保護者の肯定的回答は9割前後となっており、特に校内の掲示物については生徒の作品や生徒の興味・関心を高めるタイムリーな内容の作品を、情報担当の職員が中心となって作成・掲示している。また、職員は-8ポイントとなっているが、教室内の日常的な整理整頓や一部空き教室の有効活用等を課題・反省に挙げたものである。今後も適切な環境づくりを通じて、教育的効果を高めていく。
【設問10】 授業への取組 ・時間を守る	88	91	86	前回に比べ、肯定的回答は生徒が-4ポイント、職員が-11ポイントとなっている。学習委員会による2分前着席の呼びかけ活動により大幅に時間に遅れる生徒はいないが、時間に対する生徒一人一人の意識はやや低下している。また、年々顕著になる「学力の二極化」の影響が、授業への取組にも反映している。今後は、望ましい学習習慣の確立とともに、個の学力・学習状況に応じたきめ細かな指導・支援を積極的に講じて、生徒の学習意欲と学力向上に努めていく。
【設問11】 交通ルールを 守る	96	78	78	前回とほぼ同様の結果であるが、生徒と保護者・職員との認識の格が大きい。職員による交通安全に関する注意喚起・登下校指導は毎日のように行っており、ヘルメット装着率・荷縄使用率はほぼ100%である。しかし、地域・保護者の方々からは、並列走行・一時停止に関する苦情をいただくこともあり、特に1年の交通安全に対する意識が低いように思われる。今後も保護者等の協力を得てながら、交通安全に関する指導をさらに強化していく。
【設問12】 元気な あいさつ	91	73	72	前回同様、生徒と保護者・職員との認識の差は大きいままであり、前回に比べると肯定的回答は生徒が-5ポイント、職員が-9ポイントとなっている。年度当初からの生活委員会によるあいさつ運動、部活動でのあいさつ・礼法の指導等により、昨年度よりも状態は良くなっており、地域の方々からお褒めの言葉をいただくこともある。生徒・職員のポイント減は、「よりよいものを」という前向きな意識のあらわれでもあり、今後も気持ちのいい、元気いっぱいあいさつがあふれる学校を目指して、継続的に指導していく。
【設問13】 身だしなみ	94	93	97	前回同様、生徒・保護者・職員とも肯定的回答は9割を上回る結果となっている。生徒の-2ポイントは、名札忘れの影響等によるものとする。今後も清潔感のある中学生らしい身だしなみで生活できるよう指導を継続していく。
【設問14】 清掃活動	93	91	61	前回同様、生徒・保護者と職員との認識の差は大きいままであり、前回に比べると職員の肯定的回答は-5ポイントとなっている。今後も職員による率先垂範を心がけながら、生徒が公共心や勤労の精神をもって意欲的に清掃活動に取り組むように指導を強化していく。
【設問15】 保護者の参加	69	54	83	ここ数年、保護者の参加については、運動会、合唱コンクール、PTAバザーが多く、PTA総会、学年・学級PTA、フリー参観、親子奉仕作業が少ない傾向が続いている。今後は、より多くの保護者が参加したいと思えるような、生徒が主体となって活動する行事等を保護者に積極的に公開し、「開かれた学校づくり」を目指した学校運営を推進していく。